

ワークライフバランスセミナー実施報告

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-09-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 山本, かおり, 安形, 保則, 東, 美緒, 大西, 明子, 谷山, 八千代 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00026802

ワークライフバランスセミナー実施報告

山本 かおり¹⁾、安形 保則²⁾、東 美緒²⁾、大西 明子¹⁾、谷山 八千代¹⁾

(名古屋工業大学 技術部 ¹⁾計測分析課、²⁾装置開発課)

1. はじめに

平成30年3月19日(月)にワークライフバランスセミナー～女性技術系職員である私の未来を考えるための研修～を実施したので報告する。

このセミナーは、平成29年2月13日(月)に岩手大学で開催された、「女性技術系職員の人材育成を考えるシンポジウム」に参加した経験をふまえて、女性技術系職員を対象とした研修として企画した。

2. セミナー概要

セミナーの概要を右に示す(表1)。

当初は、名古屋工業大学(以下、本学)技術部女性職員を対象とした研修として企画していたが、神保睦子大同大学長に特別講演「女性と家事・育児と仕事」をお引き受けいただけたことから、学外参加者も含めて企画することにした。また、特別講演については、研修参加者以外の方も参加可能とした。

それに伴い、本セミナーはダイバーシティ推進センター(以下、センター)との共催で実施することになった。

表1 セミナー概要

ワークライフバランスセミナー ～技術系職員である私の未来を考えるための研修～				
日 時	平成30年3月19日(月) 11:00-15:30			
主 催	名古屋工業大学 技術部			
共 催	名古屋工業大学 ダイバーシティ推進センター			
プログラム	内 容	時 間	参加者数 (学外:学内)	備 考
	特別講演	11:00- 12:00	100名 (27:73)	研修参加者以外も参加可能
	昼食会	12:00- 13:00	24名 (14:10)	
	研 修	13:00- 15:30	22名 (14:8)	
託児利用	3組5名			

3. 準備

3.1 予算

学長裁量経費を申請したところ、計画が採用された。予算がついたことで、特別講演の謝金・ポスターのデザイン費と作製費用・託児費などを賄うことができた。

3.2 特別講演

講演者の神保睦子先生は、かつて本学に在籍されていたことがあり、平成29年4月に理工学系では極めて稀な女性学長に就任された。今回、ご縁があり特別講演をお引き受けいただくことができた。現在は、センターのアドバイザーボード委員を務められている。

3.3 ポスターとフライヤー

デザインを社会工学専攻建築・デザイン分野大学院博士前期課程1年(当時)津葉井一紀氏にした(図1)。このデザインを当日の案内用



図1 ポスター・フライヤー

の看板や研修資料等に二次使用するための許可を得られたことで、セミナー全体に統一感を持たせることができ、ロゴの重要性を実感した。

3.4 研修

計画にあたって念頭に置いたのは、実際に役に立つ研修の実施であった。その後、計画を立てていく中で、実施後により前向きに業務に携わっていけるような研修を目指すという方針を決めた。

研修の詳細とディスカッションのテーマを右に示す(表2、3)

3.5 広報

特別講演の会場が200名収容のホールに決まったこともあり、広報活動は様々な手段を用いて行った(表4)。学内の教員にフライヤーを配布する際は、面識のある教員には手渡しをしたり、メモをつけてメールボックスに配布するなど目に留まるような工夫を行った。

共催のセンターからは、ポスター送付先についての情報提供を受けた他、学生や卒業生等への案内メール送付、生協への三角広告の掲出案など様々な協力を得た。

4. セミナー当日

4.1 準備

朝9時に準備を開始し、10時の託児希望者の来場に備えた。(写真1)

セミナー当日に必要なスタッフについては技術部に派遣を要請し、会場設営、受付、記録、写真撮影、特別講演司会、特別講演の録画と配信などの業務を依頼した。

その他、センターからは特別講演の際のスタッフ派遣の申し出を頂き、参加者の誘導などを依頼した。

表2 研修プログラム

時間	内容
13:00~13:15	開講挨拶 オリエンテーション
13:15~13:50	ディスカッション1
13:55~14:30	ディスカッション2
14:30~15:00	休憩&交流会
15:00~15:25	まとめ
15:25~15:30	閉講挨拶

表3 ディスカッションテーマ

テーマ	内容
1 過去	これまでに困ったことは何ですか?それをどう乗り越えましたか?
2 現在	ワークライフバランスを取るために工夫していることは何ですか?
3 未来	5年後、どんな自分になりたいですか?そのために今やっていること、これからやろうとしていることは何ですか?



写真1 正門

表4 実施した広報活動

手段	詳細
HP掲載	大学公式ページ、ダイバーシティ推進センター、技術部、名古屋工業会、ナゴ女応援サイト
ポスター	東海地区の大学等へ送付、ダイバーシティ推進センター協力教員より保育園へ掲示依頼 学内掲示
フライヤー配布	教員、各課、平成29年度 高エネルギー加速器研究機構技術職員シンポジウム
チラシ配布	2017年度機器・分析技術研究会 in 長岡
三角広告	大学生協に掲出
メール	彩綾~SAYA~(名工大女子学生団体)、鶴桜会(名古屋工業大学女性同窓会) 名工大OG人材バンク(人材データベース)、ダイバーシティ推進委員会 メーリングリスト(機器・分析技術研究会、質量分析技術者研究会)、個別メール
掲示板	学内ポータル掲示版に5回掲載

4.2 特別講演

神保睦子大同大学長の特別講演では、大同大学での取り組みや、学長ご自身のこれまでの歩みについてお話していただいた。

育児休業制度が無い頃に、子育てをしながら女性が働くことは何度聞いても本当に大変なことで、途中でキャリアを断念せざるを得ない局面を迎えなければならない状況に陥ることは、とても残念だと感じた。

一方、現在大同大学では、女子学生のためにランチメニューを開発したり、女子学生専用の部屋を整備したりして様々な配慮がされているということで、これらのお話は興味深く拝聴した。(写真2)



写真2 特別講演

4.3 昼食会

セミナー参加者の希望者と先生方で昼食会を行った。神保学長、鶴飼学長、小畑技術部長、藤岡センター長、武藤副センター長にもご参加いただき、親睦を深めることができた。

参加者からは、昼食会を経ての午後の研修はスムーズにコミュニケーションをとることができて良かったとの感想も頂いた。(写真3)



写真3 昼食会

4.4 ディスカッション

事前準備として、ディスカッションのテーマについてアンケートを取り、テーマ毎にその回答を貼りつけた模造紙を準備した。当日はこれを用いてディスカッションを行い、その場で出た意見を追加していくことにした。

4グループに分かれて、グループA・Bではテーマ1過去について、グループC・Dではテーマ2現在と3未来についてディスカッションを行った。途中でメンバーチェンジをして、全員が全てのテーマについてディスカッションを行った。テーマ1はそれぞれが様々な経験談を持っているので意見が出しやすかったが、テーマ2・3は意見を出すことが少し難しかったようである。(写真4)



写真4 ディスカッション

4.5 交流会

ディスカッションで作成した模造紙を貼り出し、他のグループの意見も見られるようにして交流会を行った。

この研修は、参加者ができるだけたくさん人としゃべり、交流を持つことに重点を置いて実施した。交流会では、そのねらい通り時間いっぱいまで交流をしていただき、有意義な時間となった。(写真5)



写真5 交流会

4.6 まとめ

参加者がセミナーの感想やこの研修で得たことなどを発表し、まとめとした。皆さんに前向きな発言をしていただき、計画していたような成果が得られたと考えている。(写真6)

5. おわりに

セミナーの実施からこの報告書を執筆するまでに一年近くが経過した。その間に、平成30年度もワークライフバランスセミナーを実施することが決定した。昨年度は、有志の集まりとして実施したセミナーだったが、今年度は同じメンバーでワークライフバランスセミナー実行委員会として活動を行っている。少なくとも本学技術部内では、少しは存在を認められたようである。

2回目はどのような企画にするのか検討の結果、今回も対象は女性技術系職員とした。ワークライフバランスセミナーと冠すると、まだどことなく、対象は女性、しかも子育て中というイメージがつきまとう。しかし、そのような状況に違和感を覚える人も少なくなく、ここには「無意識の偏見」が関係しているようである。そのようなことも意識しつつ対象を1回目と同じにしたのは、思う存分意見交換をし、交流をすることができた充実感だったのかもしれない。

運営については今回の開催でノウハウを得たので、2回目はより充実したセミナーの実施を目指したい。今後この取組みがどのように進んでいくのか、いかないのかは全く未知ではあるが、進んでいくのであれば、委員会メンバーの構成や参加対象者、実施内容など課題は多い。

仕事とは直接関係はないが重要であるワークライフバランスについて、個人のことでだけでなく、一緒に働く仲間のこととしても考えるようになったのは、岩手大学で開催されたシンポジウムに参加したからである。セミナーを開催するきっかけを与えてくださった、岩手大学 中條しづ子氏に心より感謝申し上げます。

また、藤岡伸子センター長にはセミナーの案を作成する段階から様々な助言とご指導を頂きました。この場をお借りして感謝申し上げます。

最後に、研修の実施にあたりご協力・ご指導いただきましたすべての皆さまに御礼申し上げます。



写真6 まとめ



写真7 閉講挨拶



写真8 集合写真